

寄宿舎の取組



「地域を知り、地域の中で豊かにくらすための取組」

生徒の実態

- これまでの活動から、地域の商店に出かける頻度が多くなってきてている。
- 出身地域の催しに参加したり、他の舎生に紹介したり伝えたりする舎生もいる。
- 積極的に地域と関わる舎生が少ない。
- 地域とのつながりを自分のこととして捉えることがない。

実践 取組の概要・ねらいについて



実践 I 総務部の取組

『被災した時を想定し、生活体験することで有事の際に活かすことができる』

生徒の様子

- 防災士の方に事前に避難訓練を見ていただいた。防災士さんに舍生を知ってもらってから防災学習会を行ったので、舍生たちは戸惑いなく参加できていた。
- 自分から意欲的・積極的に質問をする舍生もいた。



実践 I 総務部の取組

『被災した時を想定し、生活体験することで有事の際に活かすことができる』

成果と今後へ向けて

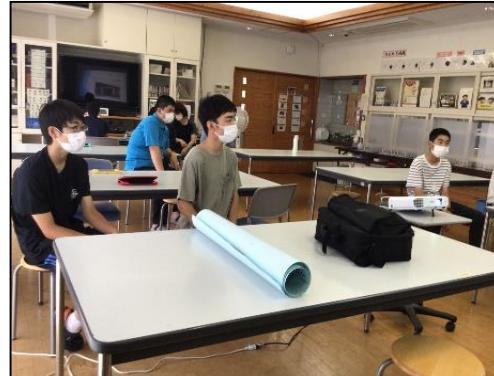
- 防災学習会は、小グループでの体験型だったので、取り組みやすかった。
- 実際に体験することでイメージをもつことができた。
- 今後も防災士さんと連携して学習会を行っていきたい。

実践Ⅱ 生徒支援部の取組

『国府まちづくりセンターを知り、身近に感じることができる』

生徒の様子

- 1年生対象に学習会を行ったが、2・3年生の中で興味がある舎生も一緒に参加していた。
- 国府まちづくりセンターについての新聞を作り掲示したことで、参加生徒以外も興味をもって見ていた。



実践Ⅱ 生徒支援部の取組

『国府まちづくりセンターを知り、身近に感じることができる』

成果と課題

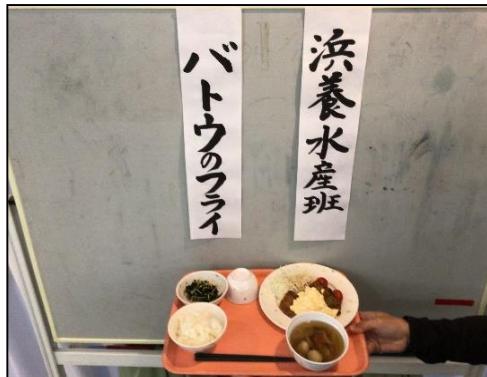
- まず、指導員が国府まちづくりセンターや近くの商店を発見し、利用して地域を知ることが大切だと思った。また、舍生がそれぞれ出身地域のまちづくりセンターや商店を活用していくことにつながつていけば良いと感じた。
- 3年生も国府まちづくりセンターについての新聞を目にし、興味をもっていた。それを研修部での取組につなげて行い、良かった。
- 1年生に何回か誘いをかけたが、国府まちづくりセンターまでの距離もあるため、なかなかまちづくりセンターへ出かけるまでには至らなかった。

実践Ⅲ 健康部の取組

『地域の特産品を知り、身边に感じることができる』

生徒の様子

- 献立表に地元食材などを明記したことで、以前より献立表をよく見ている姿があった。
- 作業班の食品が食事に出たときは、自分たちが作っているものを見てもらっているという喜びを感じている姿もあった。また、食事を楽しみしている様子が増えた。
- 地域の美味しいもののマップを作り貼り出したが、読み込むのは難しいようだった。



実践Ⅲ 健康部の取組

『地域の特産品を知り、身边に感じることができる』

成果と今後へ向けて

- 生徒たちが地域の名産品や食材を広く知ることができた。
- 地域の食材や、作業班で作った食材等を舎食で利用することで、生徒たちの食への意識が高まつた。
- 年間を通して、旬の食材を舎生に紹介していきたい。

実践Ⅳ 研修部の取組

『出身地域のまちづくりセンターの活用や、卒業後の生活をイメージし体験する』

生徒の様子

○3年生を対象に、ごみの分別のアンケートを実施した。実際にごみ出しも体験することで、卒業後の生活を組み立てるよい機会となった。

○出身地域のまちづくりセンターとのインタビューでは、地域の一員として認識されていることや、浜田の本庁に行かなくても住民票などの手続きができると知って驚いていた。



岡見まちづくりセンター



長浜まちづくりセンター

実践IV 研修部の取組

『出身地域のまちづくりセンターの活用や、卒業後の生活をイメージし体験する』

成果と課題

- 舎生が、就労後の生活をイメージし、どのような生活を送っていけばいいのか、自分で考えることができた。
- 国府まちづくりセンターをはじめとする地域の方々や、岡見まちづくりセンターや長浜まちづくりセンターなど、出身地域の方々に気にかけていただいていることを実感することができた。
- 今後も卒業後の生活に活かすため、継続できる取組を行っていく。



『岡見まちづくりセンター』 リモートインタビューの様子

